

令和4年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	神奈川県	市町村類型	政令指定都市	指定団体等の指定状況		区分		区分		令和4年度(千円・%)	令和3年度(千円・%)	
				財政健全化等	×	歳入総額	354,093,500	343,241,444	実質収支比率			8.9
市町村名	相模原市	地方交付税種地	1-7	財源超過	×	歳出総額	336,509,959	317,528,162	経常収支比率	96.9	93.3	
				首都	○	歳入歳出差引	17,583,541	25,713,282	(※1)	(103.3)	(101.8)	
				近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	1,594,260	1,102,780	標準財政規模	180,308,481	185,703,850	
				中部	×	実質収支	15,989,281	24,610,502	財政力指数	0.85	0.86	
人口	令和2年国調(人)	725,489	産業構造(※5)	山搬	○	単年度収支	-8,621,221	14,521,378	公債費負担比率	12.9	12.7	
	平成27年国調(人)	720,775		過疎	×	積立金	16,495	4,405	健全化判断比率			
	増減率(%)	0.7		山搬	○	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-	
住民基本台帳人口(※7)	令05.01.01(人)	719,118	第1次	低開発	×	積立金取崩し額	7,610,000	0	連結実質赤字比率	-	-	
	うち日本人(人)	701,689		指数表選定	○	実質単年度収支	-16,214,726	14,525,783	実質公債費比率	2.7	2.7	
	令04.01.01(人)	719,112	第2次			基準財政収入額	117,850,805	113,553,367	将来負担比率	2.0	14.2	
	うち日本人(人)	703,326				基準財政需要額	140,407,360	136,771,575	資金不足比率(※4)			
	増減率(%)	0.0	第3次			標準税収入額等	146,142,462	140,809,079				
	うち日本人(%)	-0.2				経常経費充当一般財源等	181,892,985	175,475,156				
面積(km ²)	328.91				歳入一般財源等	230,830,636	212,432,020					
人口密度(人/km ²)	2,206											
世帯数(世帯)	332,770											
職員の状況(※8)												
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	265,220,373	274,385,848		
	市区町村長	1	11,420	一般職員	4,575	14,008,650	3,062	うち公的資金	53,057,550	59,207,563		
	副市区町村長	3	9,350	うち消防職員	744	2,337,648	3,142	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	113,236,043	121,632,504		
	教育長	1	8,040	うち技能労務職員	301	915,642	3,042	債務負担行為(支出予定額)	39,311,550	37,545,615		
	議会議長	1	7,790	教育公務員	2,959	9,753,525	3,296	収益事業収入	1,156,260	1,190,254		
	議会副議長	1	7,130	臨時職員	210	548,100	2,610	土地開発基金現在高	2,000,000	2,000,000		
	議会議員	44	6,700	合計	7,744	24,310,275	3,139	積立金現在高	20,840,635	16,034,140		
				ラスパイレズ指数				減債基金	478,903	458,409		
								その他特定目的基金	18,660,785	7,572,723		
一般会計等の一覧												
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(6)	国民健康保険事業特別会計(事業勘定)	(11)	下水道事業会計					(13)	相模原市まち・みどり公社	○
(2)	母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	(7)	国民健康保険事業特別会計(直営診療勘定)	(12)	簡易水道事業会計					(14)	相模原市社会福祉協議会	○
(3)	公債管理特別会計	(8)	自動車駐車場事業特別会計							(15)	相模原市民文化財団	
(4)	公共用地先行取得事業特別会計	(9)	介護保険事業特別会計							(16)	相模原市スポーツ協会	
(5)	麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業特別会計	(10)	後期高齢者医療事業特別会計							(17)	相模原市勤労者福祉サービスセンター	
										(18)	相模原市産業振興財団	
										(19)	相模原市シルバー人材センター	
										(20)	相模原市防災協会	
										(21)	さがみはら産業創造センター	
										(22)	相模原市社会福祉事業団	

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（市町村）

区分	歳入の状況（単位 千円・%）				地方税の状況（単位 千円・%）			
	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	134,401,563	38.0	124,898,342	70.9	普通税	121,741,052	90.6	413,219
地方譲与税	1,727,090	0.5	1,727,090	1.0	法定普通税	121,741,052	90.6	413,219
利子割交付金	38,491	0.0	38,491	0.0	市町村民税	68,285,114	50.8	413,219
配当割交付金	774,032	0.2	774,032	0.4	個人均等割	1,318,723	1.0	-
株式等譲渡所得割交付金	593,238	0.2	593,238	0.3	所得割	60,882,789	45.3	-
分離課税所得割交付金	114,325	0.0	114,325	0.1	法人均等割	1,820,672	1.4	-
地方消費税交付金	16,546,722	4.7	16,546,722	9.4	法人税割	4,262,930	3.2	413,219
ゴルフ場利用税交付金	163,593	0.0	163,593	0.1	固定資産税	47,274,803	35.2	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	46,221,295	34.4	-
自動車取得税交付金	4,187	0.0	4,187	0.0	軽自動車税	1,210,169	0.9	-
軽油引取税交付金	3,047,960	0.9	3,047,960	1.7	市町村たばこ税	4,970,966	3.7	-
自動車税環境性能割交付金	570,026	0.2	570,026	0.3	釧産税	-	-	-
法人事業税交付金	1,404,137	0.4	1,404,137	0.8	特別土地保有税	-	-	-
地方特例交付金等	1,151,527	0.3	1,151,527	0.7	法定外普通税	-	-	-
個人住民税減収補填特例交付金	1,136,840	0.3	1,136,840	0.6	目的税	12,660,511	9.4	-
新型コロナウィルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	14,687	0.0	14,687	0.0	法定目的税	12,660,511	9.4	-
地方交付税	23,649,389	6.7	22,556,555	12.8	入湯税	-	-	-
普通交付税	22,556,555	6.4	22,556,555	12.8	事業所税	3,157,290	2.3	-
特別交付税	1,092,698	0.3	-	-	都市計画税	9,503,221	7.1	-
震災復興特別交付税	136	0.0	-	-	水利地益税等	-	-	-
(一般財源計)	184,186,280	52.0	173,590,225	98.6	法定外目的税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	200,727	0.1	200,727	0.1	旧法による税	-	-	-
分担金・負担金	877,128	0.2	-	-	合計	134,401,563	100.0	413,219
使用料	3,238,890	0.9	872,359	0.5				
手数料	1,989,613	0.6	-	-				
国庫支出金	84,630,573	23.9	-	-				
国有提供交付金(特別区財調交付金)	1,342,760	0.4	1,342,760	0.8				
都道府県支出金	20,924,927	5.9	-	-				
財産収入	747,115	0.2	107,986	0.1				
寄附金	945,424	0.3	-	-				
繰入金	8,470,340	2.4	-	-				
繰越金	13,313,282	3.8	-	-				
繰入金	13,147,341	3.7	331	0.0				
地方債	20,079,100	5.7	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	11,609,400	3.3	-	-				
歳入合計	354,093,500	100.0	176,114,388	100.0				

区分	歳入の状況（単位 千円・%）			
	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	928,895	0.3	-	928,890
総務費	26,667,427	7.9	661,145	22,677,305
民生費	140,846,569	41.9	1,019,119	64,626,588
衛生費	35,425,010	10.5	860,787	21,309,380
労働費	305,472	0.1	-	186,438
農林水産業費	919,891	0.3	51,876	796,656
商工費	11,648,626	3.5	472,583	3,758,687
土木費	29,308,831	8.7	8,107,940	21,431,245
消防費	8,890,566	2.6	1,730,364	7,579,913
教育費	50,858,726	15.1	2,645,032	40,091,004
災害復旧費	294,080	0.1	-	83,156
公債費	30,415,866	9.0	-	29,778,033
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	336,509,959	100.0	15,548,846	213,247,095

区分	性質別歳入の状況（単位 千円・%）			
	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等
義務的経費計	209,014,281	62.1	127,998,356	122,534,981
人件費	73,360,147	21.8	62,550,742	62,496,360
うち職員給	51,044,019	15.2	42,126,596	-
扶助費	105,301,750	31.3	35,733,063	33,657,370
公債費	30,352,384	9.0	29,714,551	26,381,251
元利償還金	30,352,384	9.0	29,714,551	26,381,251
うち元金	29,244,575	8.7	28,632,746	25,299,446
うち利子	1,107,809	0.3	1,081,805	1,081,805
一時借入金利子	-	-	-	-
その他の経費	111,652,752	33.2	81,016,148	59,358,004
物件費	45,784,197	13.6	31,813,542	29,371,928
維持補修費	4,300,241	1.3	3,589,380	3,589,332
補助費等	19,445,794	5.8	16,025,049	10,814,272
うち一部事務組合負担金	34,706	0.0	34,706	34,706
繰出金	22,204,992	6.6	18,388,342	15,485,632
積立金	11,928,338	3.5	11,102,995	-
投資・出資金・貸付金	7,989,190	2.4	96,840	96,840
前年度繰上充用金	-	-	-	-
投資的経費計	15,842,926	4.7	4,232,591	-
うち人件費	349,056	0.1	347,389	-
普通建設事業費	15,548,846	4.6	4,149,435	-
うち補助	3,812,826	1.1	287,257	-
うち単独	10,891,725	3.2	3,177,483	-
災害復旧事業費	294,080	0.1	83,156	-
失業対策事業費	-	-	-	-
歳出合計	336,509,959	100.0	213,247,095	-

区分	令和4年度	令和3年度
合計	99.3 98.1	99.3 98.1
市町村民税	98.9 97.2	99.0 97.3
純固定資産税	99.6 99.0	99.6 98.9

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	26,492,957	実質収支	578,925
下水道	4,100,000	再差引収支	-1,285,471
駐車場整備	564,811	加入世帯数(世帯)	95,343
簡易水道	187,965	被保険者数(人)	138,280
上水道	-	被保険者1人当り	111
国民健康保険	5,917,192	保険税(料)収入額	-
その他	15,722,989	国庫支出金	-
		保険給付費	335

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

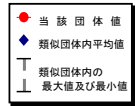
会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	352,882	335,683	17,199	15,984	26	276,286	
2 母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	513	185	328	-	1	1,011	
3 公債管理特別会計	50,801	50,801	0	-	0	0	
4 公共用地先行取得事業特別会計	986	986	0	-	2	3,911	
5 南清台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業特別会計	774	723	51	0	725	1,435	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和4年度

神奈川県相模原市

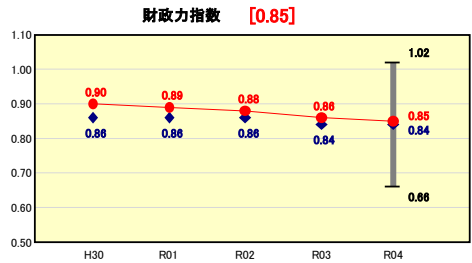
人口	719,118人	(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	701,689人	(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	328.91	km ²	実質公債費比率	2.7	%
歳入総額	354,093,500	千円	将来負担比率	2.0	%
歳出総額	336,509,959	千円	市町村類型	H30 政令市 R01 政令市 R02 政令市	
実質収支	15,989,281	千円	(年度毎)	R03 政令市 R04 政令市	
標準財政規模	180,308,481	千円			
地方債現在高	265,220,373	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費費弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」「ラスパイレース指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

財政力

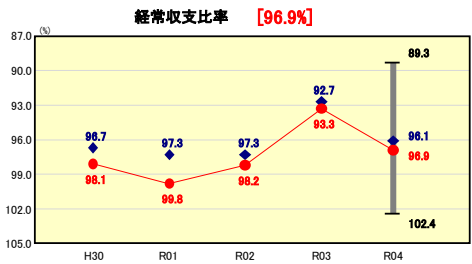
類似団体内順位 9/20 全国平均 0.49 神奈川県平均 0.88



財政力指数の分析欄
 令和4年度においては、社会福祉費等の増加により基準財政需要額が増加したが、市民税のうち法人税割が増加したこと等により基準財政収入額についても増加したことから、単年度の財政力指数は前年度に比べ0.01ポイント上昇の0.84となり、3年平均では前年度に比べ0.01ポイント低下の0.85となっている。直近5年間の類似団体の推移を見ると、類似団体平均を上回っているもの、依然として低下傾向が続いている状況にあることから、持続可能な行政財政構造の構築に向けた市税収入の確保策の検討や債権回収の強化等により、財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性

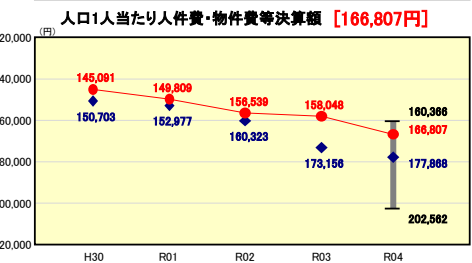
類似団体内順位 10/20 全国平均 92.2 神奈川県平均 96.7



経常収支比率の分析欄
 経常経費充当一般財源は、人件費、扶助費及び物件費が増加したこと等により、前年度と比べると3.7ポイント増加となっている。一方、経常一般財源等は、市税が増加した一方で普通交付税が減少したこと等により、前年度と比べると0.1ポイント減少となっている。
 以上から、経常収支比率は、前年度から3.6ポイント上昇し、類似団体平均を下回っている状況が続いている。こうした状況等を踏まえ、令和6年度以降も「相模原市行政財政構造改革プラン」(令和3年4月策定)に基づく取組の推進等により経常収支比率を改善し、財政構造の弾力化を図る。

人件費・物件費等の状況

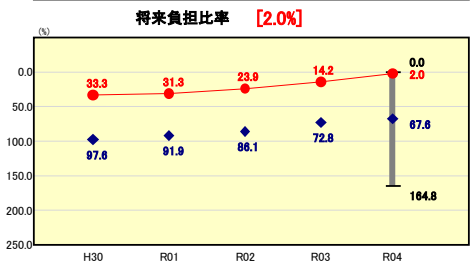
類似団体内順位 2/20 全国平均 160,081 神奈川県平均 155,031



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人口1人当たり人件費・物件費等決算額は166,807円で、人事委員会勧告に基づく期末手当の引き上げや物価高騰等の影響により、前年度から8,759円増加したものの、類似団体平均を下回っている。
 直近5年間の推移は、概ね類似団体平均と同じ動きをしているが、近年増加傾向にある物件費については、委託事業の見直しや庁舎等施設の維持管理に係る委託料の見直し等により縮減に努める。

将来負担の状況

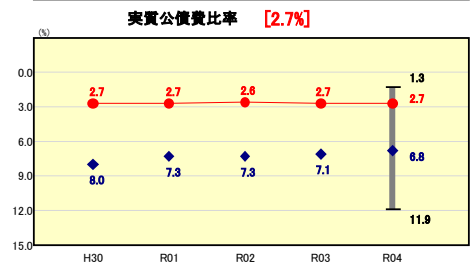
類似団体内順位 5/20 全国平均 8.8 神奈川県平均 84.9



将来負担比率の分析欄
 将来負担比率については、分母である標準財政規模が大幅に減額した一方で、分子についても、財政調整基金等の充当可能基金額の増加等により、分子全体が大幅に減少したため、前年度と比較すると12.2ポイント減少の2.0%となった。
 類似団体平均を下回っている主な要因としては、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用してきたことが挙げられるが、引き続き、将来にわたり持続可能な財政運営に努めていく。

公債費負担の状況

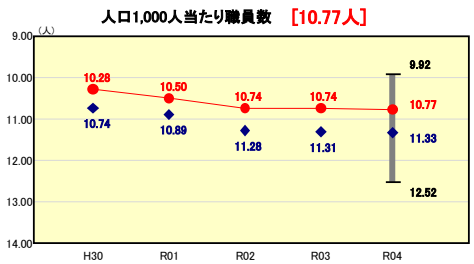
類似団体内順位 2/20 全国平均 5.5 神奈川県平均 7.2



実質公債費比率の分析欄
 実質公債費比率については、令和4年度単年度で見た場合、分母である標準財政規模が大幅に減額したこと等により、前年度(令和3年度単年度)と比較すると0.2ポイント増加の2.9%となったが、3年平均では前年度と同じ2.7%となった。
 類似団体平均を大きく下回っている主な要因としては、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用してきたことが挙げられるが、引き続き、将来にわたり持続可能な財政運営に努めていく。

定員管理の状況

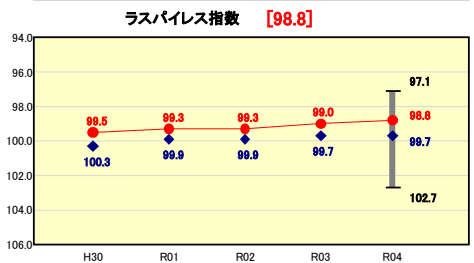
類似団体内順位 6/20 全国平均 8.25 神奈川県平均 9.11



人口1,000人当たり職員数の分析欄
 令和2年度から定員管理の対象に臨時的任用職員の一部が加えられたため、令和2年度は微増となり、令和3年度も前年度と同じ値となっている。
 また、令和3年度に策定した職員定数管理計画(計画期間:令和4年度~令和6年)においては、職員定数(令和3年度と同数)を3年間維持することとしている。
 平成27年度以降、類似団体平均を下回っているが、引き続き、事務執行体制及び事務事業の見直しや民間活力の導入を推進するとともに、必要度・重要度の高い事務事業に対しては重点的に職員を配分するなど、適切な定員管理に努める。

給与水準(国との比較)

類似団体内順位 2/20 全国市平均 98.7 全国町村平均 98.3



ラスパイレース指数の分析欄
 平成27年度に給与制度の総合の見直しを実施し、給料表の引下げ改定を行ったことにより、平成27年度以降、ラスパイレース指数は、100を下回る水準で推移している。
 令和4年度の数値は、前年度より0.2ポイント減少となっている。
 今後も引き続き、適正な給与水準の維持に努める。

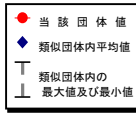
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

神奈川県相模原市

経常収支比率の分析

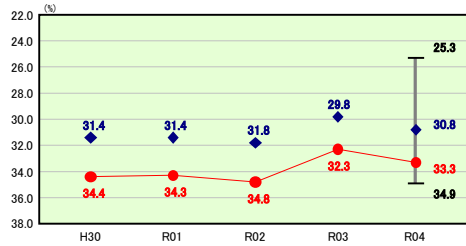
人口	719,118	人(R5.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	701,689	人(R5.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%
面積	328.91	km ²	実収公債費比率	2.7	%
歳入総額	354,093,500	千円	将来負担比率	2.0	%
歳出総額	336,509,959	千円	市町村類型	H30 政令市 R01 政令市 R02 政令市	
実収収支	15,989,281	千円	(年度毎)	R03 政令市 R04 政令市	
標準財政規模	180,308,481	千円			
地方債現在高	265,220,373	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

人件費

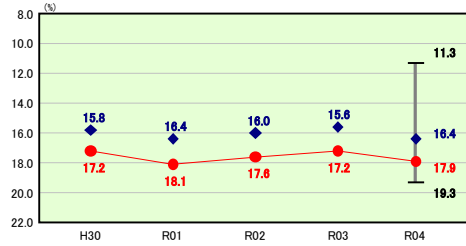
類似団体内順位 15/20 全国平均 25.9 神奈川県平均 30.1



人件費の分析欄
 人件費に係る経常収支比率は、33.3%で前年度と比べると1.0ポイント上昇し、類似団体平均と比べると2.5ポイント上回っている。
 人口1人当たりの人件費、人口1,000人当たり職員数及びプラスバイレス指数は類似団体平均を下回っているが、普通建設事業費が類似団体の中で大きく下回っており、事業費支弁人件費の割合が低いことが類似団体平均を上回る要因となっている。
 引き続き、職員定数管理計画に基づいて適切な職員規模や給与水準の維持に努める。

扶助費

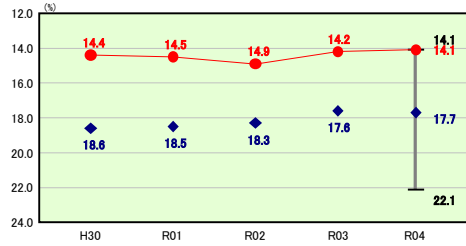
類似団体内順位 15/20 全国平均 12.5 神奈川県平均 17.1



扶助費の分析欄
 扶助費に係る経常収支比率は、17.9%で前年度と比べると0.7ポイント上昇し、類似団体平均と比べると1.5ポイント上回っている。
 市民1人当たりの市単独事業の扶助費が高いことが類似団体平均を上回る要因となっていることから、引き続き、市単独事業の扶助費の適正化を図っていく。

公債費

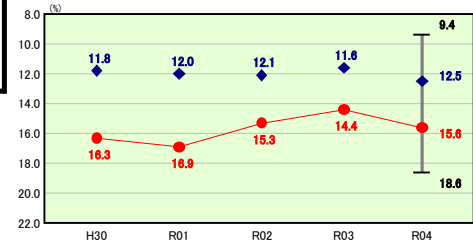
類似団体内順位 1/20 全国平均 16.0 神奈川県平均 15.1



公債費の分析欄
 公債費に係る経常収支比率は、14.1%で前年度と比べると0.1ポイント低下し、類似団体平均と比べると3.6ポイント下回っている。
 これまで市債の発行抑制目標等に留意し、適切な市債発行に努めてきたこと等が類似団体平均を下回る要因となっている。
 引き続き、元利償還金に対する交付税措置のある有利な起債を発行するなど適切な運営に努める。

物件費

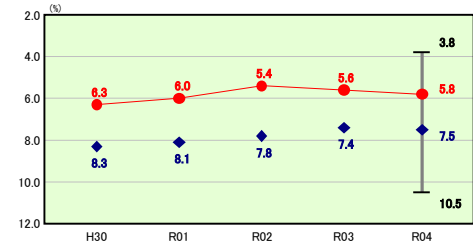
類似団体内順位 19/20 全国平均 14.9 神奈川県平均 15.0



物件費の分析欄
 物件費に係る経常収支比率は、15.6%で前年度と比べると1.2ポイント上昇し、類似団体平均と比べると3.1ポイント上回っている。
 最低賃金が類似団体より高く、委託料が割高であることが類似団体平均を上回る要因となっている。
 今後、委託事業の見直しや庁舎等施設の維持管理に係る委託料の見直し等により、物件費の縮減に努める。

補助費等

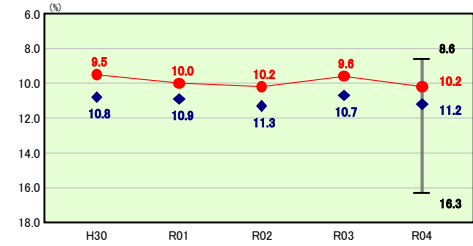
類似団体内順位 6/20 全国平均 10.5 神奈川県平均 9.1



補助費等の分析欄
 補助費等に係る経常収支比率は、5.8%で前年度と比べると0.2ポイント上昇し、類似団体平均と比べると1.7ポイント下回っている。
 補助金については、補助金の見直し指針に基づいて公益性、公平性及び透明性の確保を図ってきたところであり、今後も引き続き同指針に基づいた見直しを行う。

その他

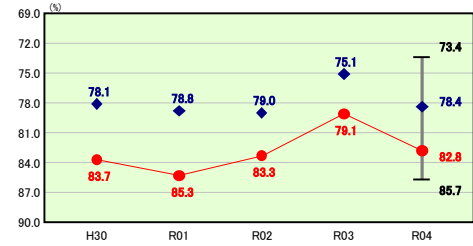
類似団体内順位 5/20 全国平均 12.4 神奈川県平均 10.3



その他の分析欄
 その他の経費に係る経常収支比率は、10.2%で前年度と比べると0.6ポイント上昇し、類似団体平均と比べると1.0ポイント下回っている。
 繰出金に係る経常収支比率が、後期高齢者医療事業特別会計への繰出金の増加等により前年度と比べ0.4ポイント上昇したが、類似団体平均を下回る状況が続いている。
 引き続き、特別会計の経営健全化や公共施設の適正な管理に努める。

公債費以外

類似団体内順位 19/20 全国平均 76.2 神奈川県平均 81.6



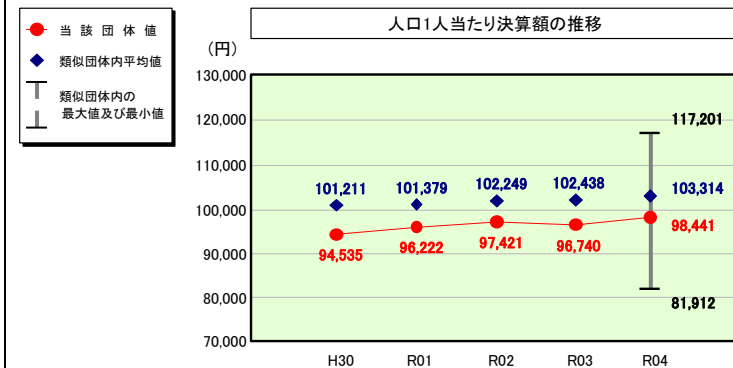
公債費以外の分析欄
 公債費以外に係る経常収支比率は、82.8%で前年度と比べると3.7ポイント上昇し、類似団体平均と比べると4.4ポイント上回っている。
 人件費、扶助費及び物件費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っていることが要因となっている。
 「相模原市行政財政構造改革プラン」に基づき、市単独事業の扶助費の適正化や既存の公共施設等の見直しにより、持続可能な行政財政基盤を築いていく。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

神奈川県相模原市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

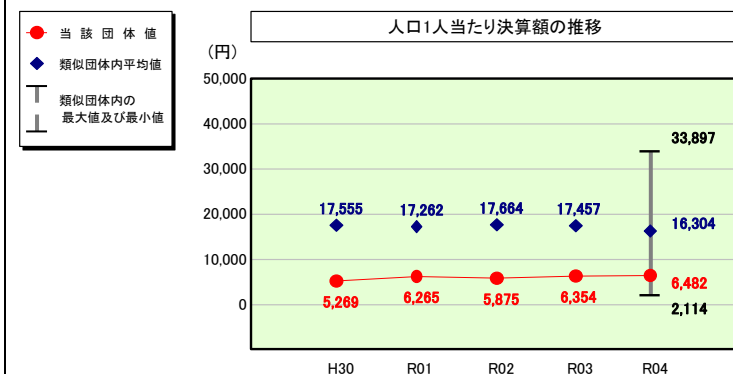
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	73,360,147	102,014	106,216	▲ 4.0
一部事務組合負担金(補助費等)	93	0	93	▲ 100.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	147,402	205	1,081	▲ 81.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	5	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	773,998	1,076	1,912	▲ 43.7
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	349,056	485	1,291	▲ 62.4
▲退職金	▲ 3,839,810	▲ 5,340	▲ 7,284	▲ 26.7
合計	70,790,886	98,441	103,314	▲ 4.7

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	10.77	11.33	▲ 0.56
ラスパイレース指数	98.8	99.7	▲ 0.9

(注)人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

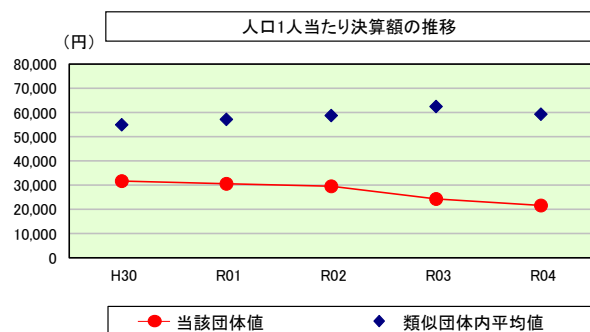


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	22,614,189	31,447	30,951	1.6
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	1,792	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	4,055,553	5,640	21,367	▲ 73.6
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	3,727,947	5,184	9,606	▲ 46.0
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	129	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	898,327	1,249	1,458	▲ 14.3
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	-	-	0	-
▲特定財源の額	▲ 9,119,328	▲ 12,681	▲ 17,360	▲ 27.0
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 17,515,449	▲ 24,357	▲ 31,639	▲ 23.0
合計	4,661,239	6,482	16,304	▲ 60.2

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H30	22,769,747	31,697	18.1	54,945	3.9	14.2
うち単独分	12,753,851	17,754	19.3	29,293	8.4	10.9
R01	21,985,736	30,608	▲ 3.4	57,132	4.0	▲ 7.4
うち単独分	9,684,194	13,482	▲ 24.1	30,126	2.8	▲ 26.9
R02	21,212,388	29,519	▲ 3.6	58,766	2.9	▲ 6.5
うち単独分	10,445,644	14,536	▲ 7.8	29,363	▲ 2.5	10.3
R03	17,497,153	24,332	▲ 17.6	62,482	6.3	▲ 23.9
うち単独分	11,214,665	15,595	7.3	34,626	17.9	▲ 10.6
R04	15,548,846	21,622	▲ 11.1	59,288	▲ 5.1	▲ 6.0
うち単独分	10,891,725	15,146	▲ 2.9	32,670	▲ 5.6	2.7
過去5年間平均	19,802,774	27,556	▲ 3.5	58,523	2.4	▲ 5.9
うち単独分	10,998,016	15,303	1.5	31,216	4.2	▲ 2.7

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

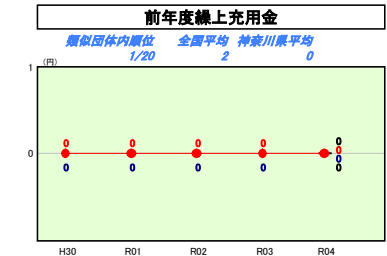
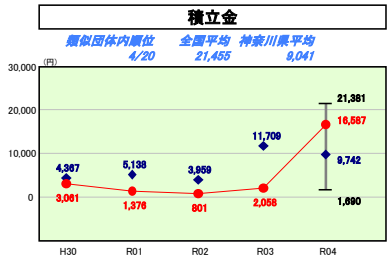
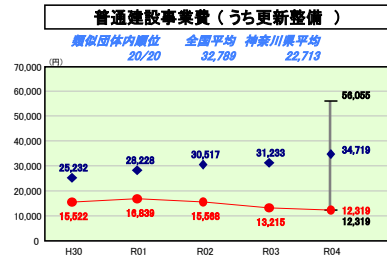
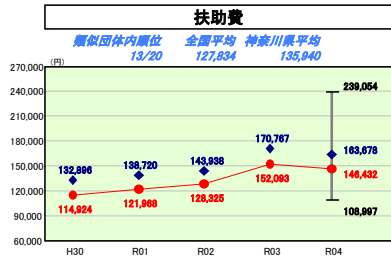
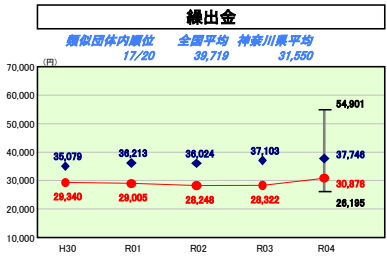
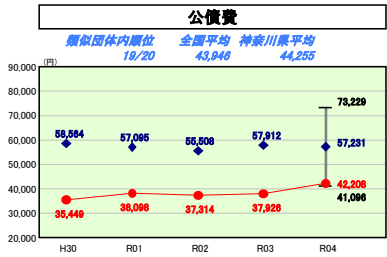
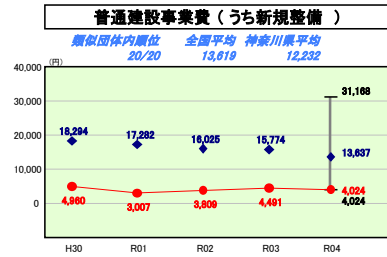
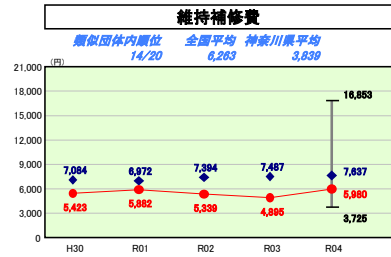
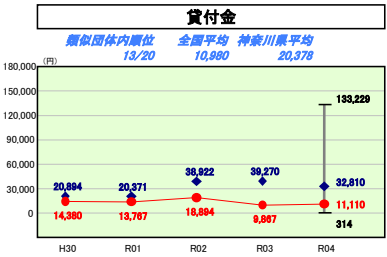
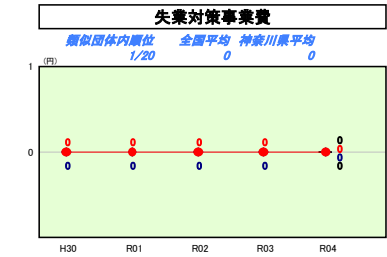
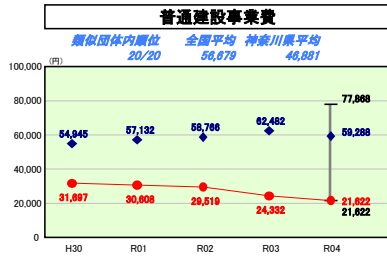
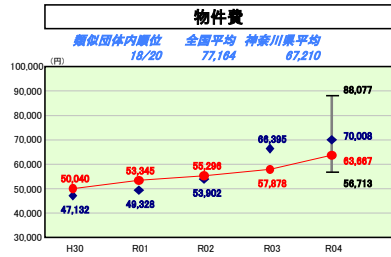
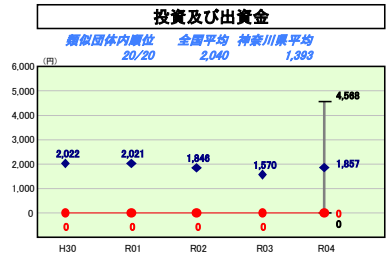
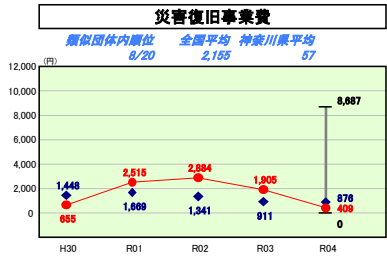
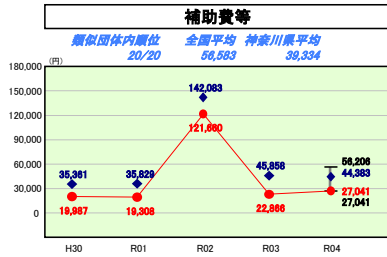
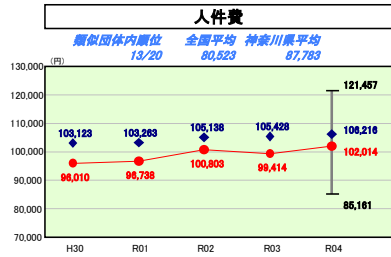
令和4年度

神奈川県相模原市

人口	719,118人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	701,689人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	328.91k㎡	実質公債費比率	2.7%
歳入総額	354,083,500千円	将来負担比率	2.0%
歳出総額	336,509,959千円	市町村類型	H30 政令市 R01 政令市 R02 政令市
実質収支	15,989,281千円	(年度毎)	R03 政令市 R04 政令市
標準財政規模	180,308,481千円		
地方債現在高	265,220,373千円		

● 当該団体値
◆ 類似団体平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析概

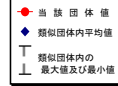
歳出決算総額は、住民一人当たり467,948円となっている。人件費は住民一人当たり102,014円で、前年度と比べると2.6%増となっている。令和4年度は、人事委員会勧告に基づく期末手当の引き上げ等の影響により増加したが、類似団体平均を下回る低い水準を維持している。扶助費は住民一人当たり146,432円で、前年度と比べると3.7%減となっている。これは、子育て世帯への臨時特別給付金事業費や、就学奨励金交付世帯子ども応援給付金事業費の減少等が主な要因である。類似団体平均を下回る水準であるが、増加傾向にあるため、引き続き単独事業の扶助費等の見直しなどに努める。普通建設事業費は住民一人当たり921,622円で、前年度と比べると11.1%減となっている。これは、相模原スポーツ・レクリエーションパーク整備事業費が減少したことに等しいものである。近年、類似団体平均を下回る低い水準で推移しているが、持続可能な都市経営を行っていくために、引き続き、老朽化する公共施設の長寿命化事業の推進や都市基盤整備等に係る経費の確保に努める。積立金は住民一人当たり16,587円で、前年度と比べると706%増となっている。これは、麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業の事業継続に伴い、その財源を市街地整備基金に積み立てたこと等によるものである。全体的に、各費目の住民一人当たりの金額は類似団体平均を下回るものが多い。こうした中で、近年増加傾向にある物件費や扶助費については、事務事業の見直し等の取組を進め、経費削減に努める。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

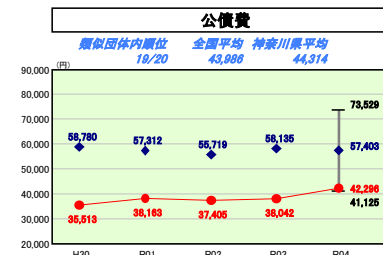
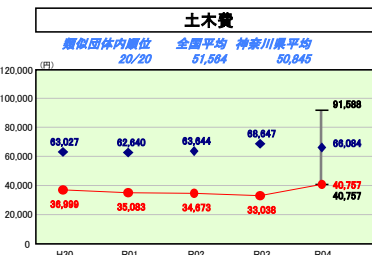
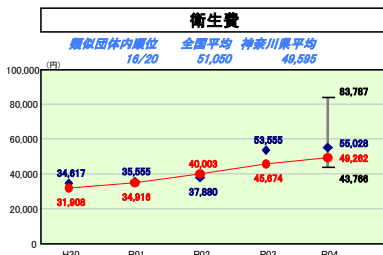
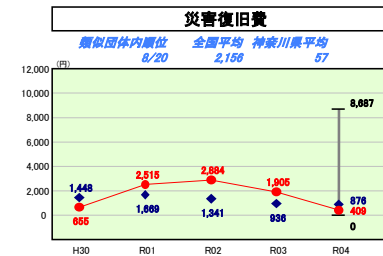
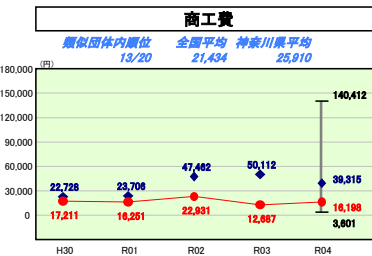
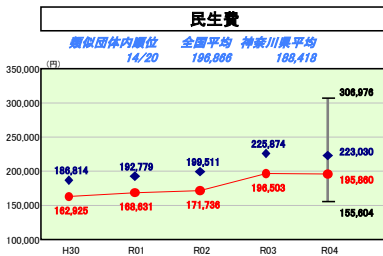
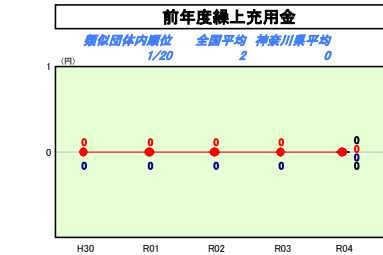
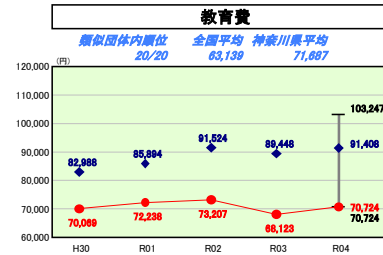
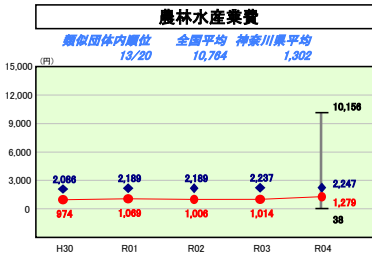
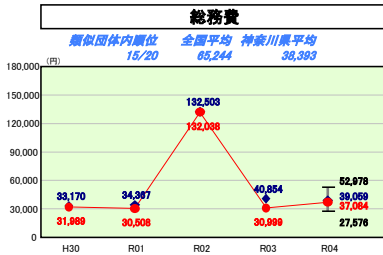
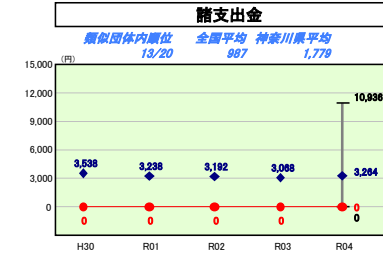
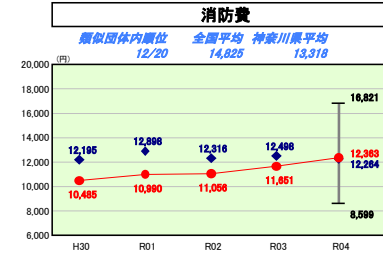
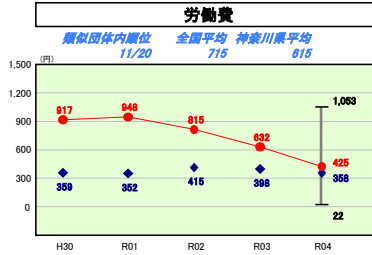
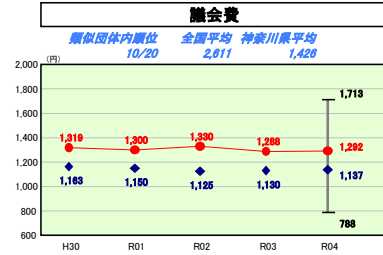
令和4年度

神奈川県相模原市

人口	719,118人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	701,689人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	328.91k㎡	実質公債費比率	2.7%
歳入総額	354,083,500千円	将来負担比率	2.0%
歳出総額	336,509,959千円	市町村類型	H30 政令市 R01 政令市 R02 政令市
実質収支	15,989,281千円	(年度毎)	R03 政令市 R04 政令市
標準財政規模	180,308,481千円		
地方債現在高	265,220,373千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



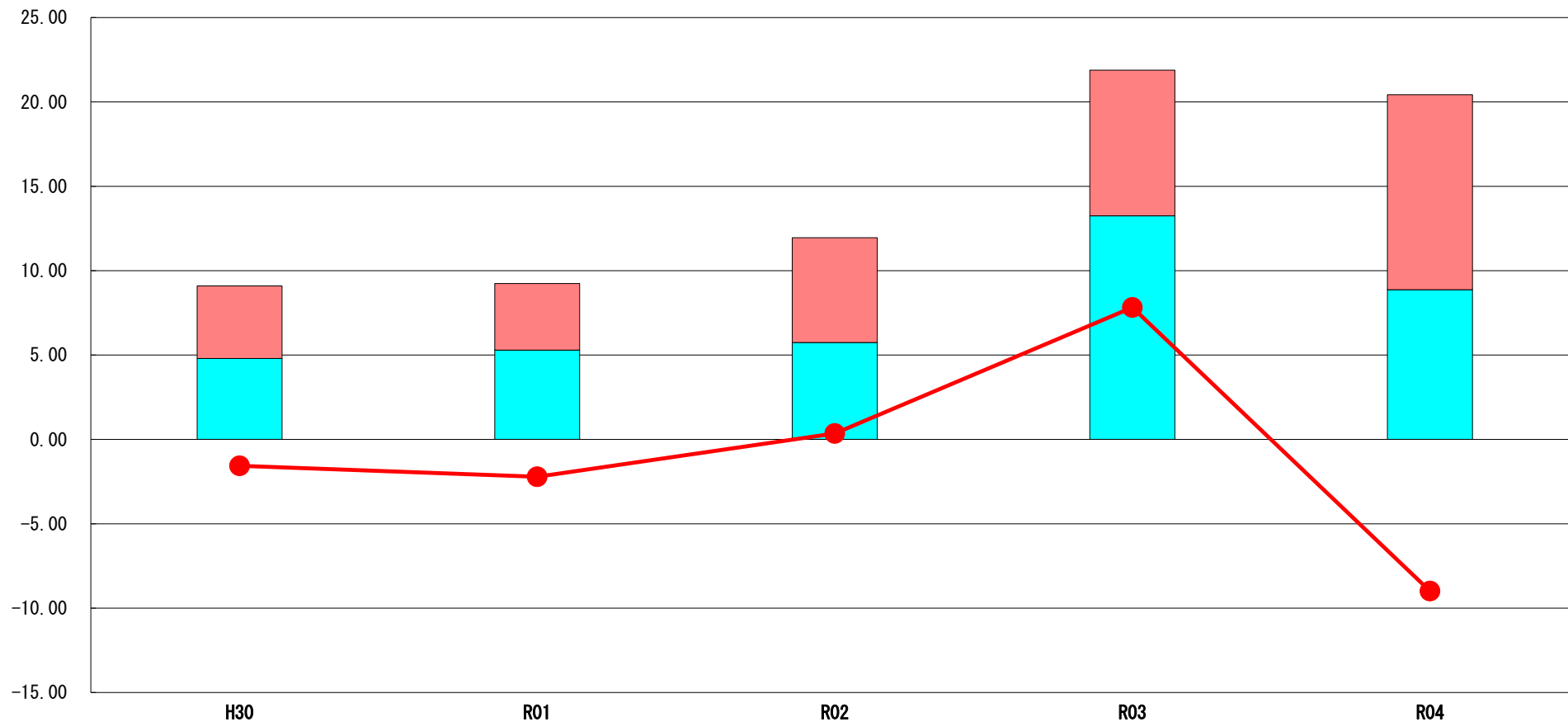
目的別歳出の分析概
 総務費は、住民一人当たり37,084円で、公共施設保全等基金積立金の増加等により前年度と比べると19.6%増となっている。民生費は、住民一人当たり195,860円で、子育て世帯への臨時特別給付金事業費の減少等により前年度と比べると0.3%減となっている。衛生費は、住民一人当たり49,262円で、感染症予防対策事業等により前年度と比べると7.9%増となっている。商工費は、住民一人当たり16,198円で、消費喚起協力金事業の増加等により前年度と比べると27.7%増となっている。土木費は、住民一人当たり40,757円で、市街地整備基金積立金の増加等により前年度と比べると23.4%増となっている。類似団体内で低い水準が続いているが、老朽化する道路や橋りょうの長寿命化事業推進や都市基盤整備等に係る経費の確保に努める。教育費は、住民一人当たり70,724円で、小学校維持管理費の増加等により前年度と比べると3.8%増となっている。災害復旧費は、住民一人当たり409円で、令和2年台風第14号により被害をより被害を受けた施設の復旧費の減少等により前年度と比べると78.5%減となっている。公債費は、住民一人当たり42,296円で、借換債発行予定額の一部に令和3年度決算剰余金を活用したこと等から前年度と比べると11.2%増となっている。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和4年度

神奈川県相模原市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
財政調整基金残高		4.31	3.95	6.21	8.63	11.56
実質収支額		4.79	5.29	5.74	13.25	8.87
実質単年度収支		▲ 1.57	▲ 2.21	0.35	7.82	▲ 8.99

分析欄

財政調整基金残高について、令和2年度から増加傾向となり、令和4年度は約208億円（標準財政規模比11.56%）となっている。

この傾向は、実質収支額の増加によるもので、コロナ禍による事業の中止や、市税収入の堅調な推移、また令和3年度については普通交付税の追加交付が特に影響している。

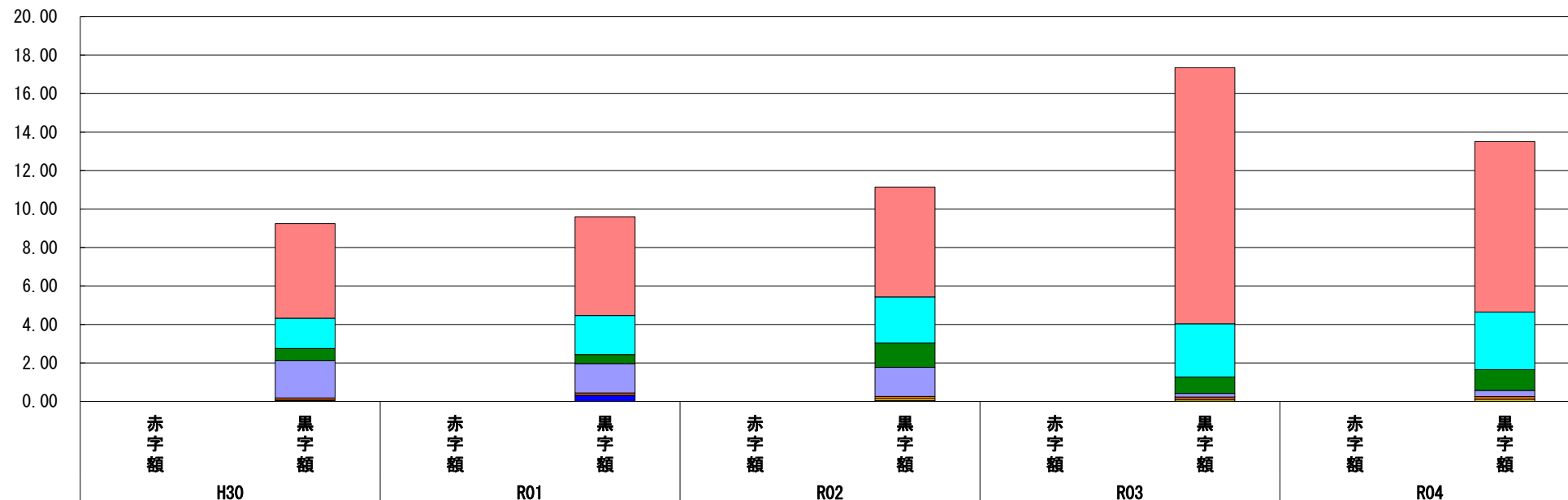
今後は、財政調整基金の適正規模を検討し、それを超える金額については、重点施策の財源として活用していく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和4年度

神奈川県相模原市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
一般会計		4.91	5.13	5.71	13.31	8.86
下水道事業会計		1.58	2.03	2.40	2.77	3.00
介護保険事業特別会計		0.63	0.47	1.26	0.85	1.08
国民健康保険事業特別会計（事業勘定）		1.94	1.53	1.51	0.19	0.32
後期高齢者医療事業特別会計		0.11	0.12	0.13	0.13	0.14
簡易水道事業会計		-	-	0.09	0.08	0.10
自動車駐車場事業特別会計		0.04	0.00	0.02	0.02	0.01
国民健康保険事業特別会計（直営診療勘定）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		▲ 0.00	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.03	0.32	0.02	0.00	0.00

分析欄

対象となる全ての会計において、赤字額及び資金不足額は生じていないことから、連結実質赤字比率は算定されていない。前年度と比べると標準財政規模に対する黒字額の割合については、3.84ポイント減少している。これは、一般会計において実質収支額が減少したこと等によるものである。

今後についても、一般会計から他会計への繰出金や受益者負担の適正化を図ることなどにより、持続可能な財政運営に努める。

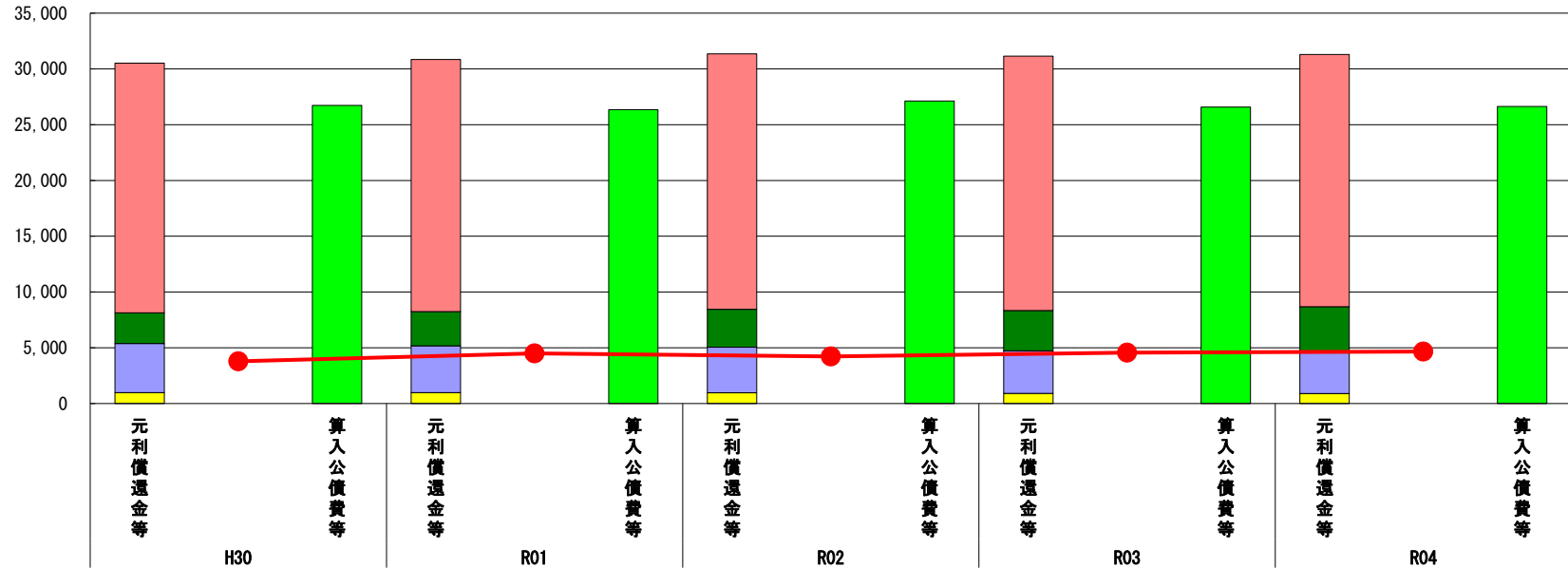
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

神奈川県相模原市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等 (A)	元利償還金		22,381	22,603	22,906	22,802	22,614
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		2,760	3,060	3,393	3,611	4,056
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		4,405	4,206	4,083	3,826	3,728
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		974	972	969	903	898
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		26,735	26,341	27,129	26,574	26,635
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		3,785	4,500	4,222	4,568	4,661

分析欄

元利償還金等については、地方債残高の減少に伴い微減傾向にあるが、満期一括償還地方債に係る年度割相当額については、前年度（令和3年度）の全国型市場公募債の発行額の増加に伴い微増したため、算入公債費等については前年度からの変動は少なかった。

※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D) / (E))

(参考)

(百万円)

減債基金積立状況等 (注)		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等 (注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)		167	167	3,467	3,333	3,333
	前年度末減債基金残高 (D)		10,520	12,778	16,903	15,494	16,171
	前年度末減債基金積立相当額 (E)		9,620	12,213	15,273	15,000	15,278

分析欄

満期一括償還方式の地方債については、毎年度発行額の1/30等の必要額を確実に積み立てている。積立不足額は生じていない。

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

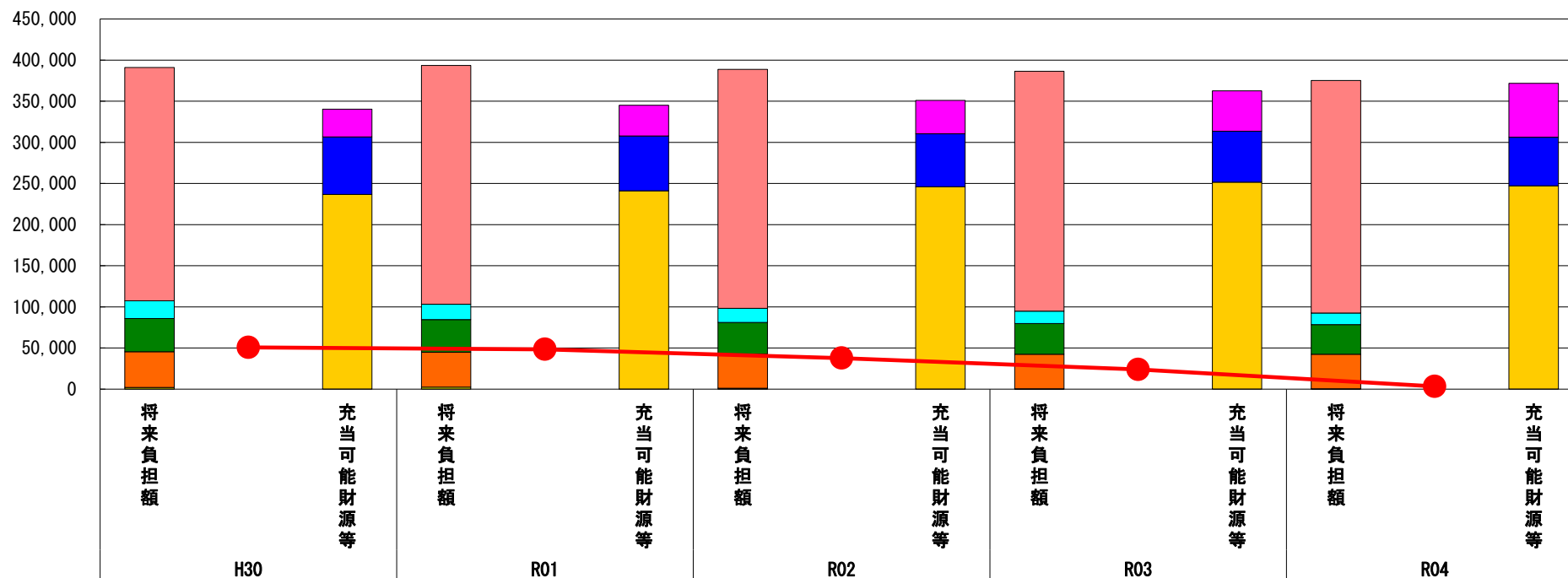
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

神奈川県相模原市

(百万円)



(百万円)

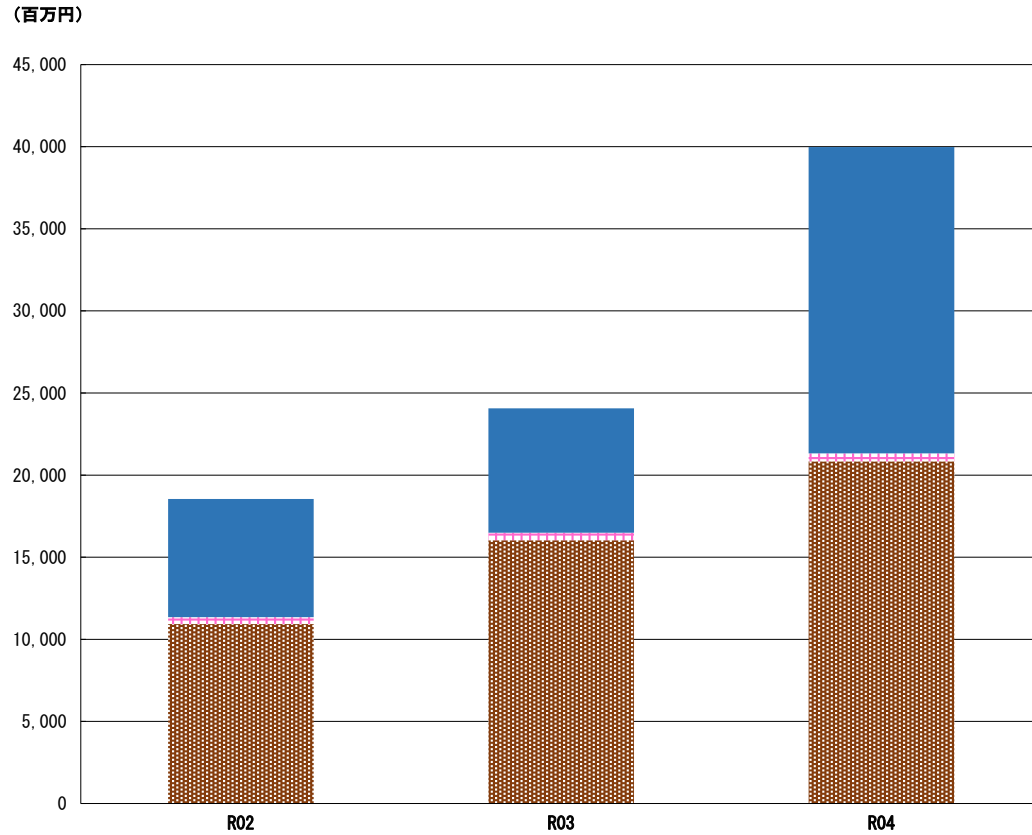
分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		283,802	290,250	290,404	291,631	282,643
	債務負担行為に基づく支出予定額		21,442	18,769	17,191	15,081	14,189
	公営企業債等繰入見込額		40,312	39,506	38,251	37,280	35,991
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		43,419	42,650	41,836	42,114	42,049
	設立法人等の負債額等負担見込額		2,133	2,345	1,063	405	350
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		33,638	37,422	40,440	49,115	65,489
	充当可能特定歳入		69,938	66,555	64,534	61,770	59,189
	基準財政需要額算入見込額		236,793	241,159	246,021	251,678	247,168
(A) - (B)	将来負担比率の分子		50,740	48,385	37,749	23,946	3,377

分析欄

将来負担額については、一般会計等の地方債残高の減少等に伴い11,289百万円減少するとともに、充当可能財源等については、財政調整基金等充当可能基金が増加したこと等により、前年度と比べると9,283百万円増加した。
このことから、前年度と比べると将来負担比率の分子は、20,569百万円減少した。

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	R02	R03	R04
財政調整基金		10,930	16,034	20,841
減債基金		420	458	479
その他特定目的基金		7,199	7,573	18,661
市街地整備基金		407	407	7,533
公共施設保全等基金		553	454	3,455
都市交通施設整備基金		1,915	1,917	1,909
まち・ひと・しごと創生基金		-	727	1,423
社会福祉基金		722	726	729
基金残高合計		18,549	24,065	39,980

令和4年度

神奈川県相模原市

基金全体

(増減理由)

令和4年度末の基金残高は、前年度末と比較して約159億円の増加となった。財政調整基金残高は約48億円の増加であり、その他特定目的基金は、市街地整備基金が約71億円増加したことや公共施設保全等基金が約30億円増加したこと等により、約111億円の増加となった。

(今後の方針)

財政調整基金については、年度間の財源の不均衡調整のほか、経済の不況等による大幅な税收減などの予期せぬ収入減少や大規模災害等に対応するなど、中長期的に安定した財政運営を行う観点から一定規模の残高を確保していく。その他特定目的基金については、短期的には、市街地整備基金や公共施設保全等基金への積立ての増加等により、残高が増加していく傾向にあるが、事業の推進に伴い、中長期的には減少していく見込みである。

財政調整基金

(増減理由)

財政調整基金については、積立額が取崩額を上回ったため、残高が増加した。積立額は前年度決算における実質収支の約2分の1に相当する額としており、前年度決算においては、新型コロナウイルス感染症対策事業に係る国庫支出金の不用額が増加したこと等により実質収支額が増加したため、積立額も増加し、取崩額を上回った。

(今後の方針)

財政調整基金の適正な規模について、今後、検討及び設定をすることとし、中長期的に安定した財政運営を行う観点から一定規模の残高を確保するとともに、積立目標額を超える金額については、今後予定する大規模な建設事業の経費の財源に充てるなど、重点施策の財源として活用していく。

減債基金

(増減理由)

減債基金については、基金運用益等の積立により、前年度と比べると約0.2億円増加した。

(今後の方針)

運用益等の積立により、残高は増加する見込みである。なお、この残高には含まれていない満期一括償還に係る基金への積立てについては、各年度における発行額の1/30を確実に基金へ積み立てており、また、資金不足による基金の取崩しも行ってないため、償還に対する財源不足は生じていない。

その他特定目的基金

(基金の使途)

- 市街地整備基金：市街地整備事業の財源とするために設置された基金
- 公共施設保全等基金：公共施設の保全及び活用を図る事業の財源とするために設置された基金
- まち・ひと・しごと創生基金：まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条第1項に規定するまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画の推進を図る事業の財源とするために設置された基金

(増減理由)

- 市街地整備基金：麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業の事業継続に伴う事業費の積立てを行ったため増加した。
- 公共施設保全等基金：公共施設長寿命化事業に係る財政負担の平準化に伴う事業費の積立てを行ったため増加した。
- まち・ひと・しごと創生基金：暮らし潤いさがみはら寄附金の積立てを行ったため増加した。

(今後の方針)

- 市街地整備基金：麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業の事業継続に伴う事業費の積立てを行ったことから基金残高は増加したが、中長期的には、事業の進捗に応じて取崩しを行うため残高は減少する見込みである。
- 公共施設保全等基金：公共施設長寿命化事業に係る財政負担の平準化に伴う事業費の積立てを行ったことから基金残高は増加したが、中長期的には、事業を進捗に応じて取崩しを行うため残高は減少する見込みである。